

土木学会

震災がれきの処分と有効利用に関する調査研究小委員会

第1回委員会 議事録

日時：2012年6月1日（金）14：00～16：20

場所：土木学会 AB 会議室

出席者：久田委員長，河井幹事，丸屋幹事，綾野，遠藤，大河原，大崎，岡沢（代：小川），尾形，河合，菊池，椎名，杉橋，杉山（代：マイケル），竹田，田中，寺村，中川，羽原（代：小山田），緑川，藪田（代：岡本），渡邊の各委員，小林幹事長

配付資料：

- 1-0 議事次第
- 1-1 委員構成
- 1-2 平成24年度「重点研究課題」申請書，など
- 1-3 平成24年度全国大会に伴う研究討論会の企画について
- 1-4 第1回幹事会議事録
- 1-5 沿岸市町村の災害廃棄物処理の進捗状況
- 1-6 仙台市における震災廃棄物の処理について
- 1-7 災害廃棄物処理施設建設などを含む災害廃棄物処理業務

議事：

1. 委員長挨拶

2. 各委員の自己紹介

出席委員から自己紹介がなされた。

3. これまでの経緯に関する情報共有と活動内容に関する意見交換

資料1-2～1-7について，久田委員長と小林幹事長から説明があり，その後，フリーディスカッションを行った。

- ・ ①コンクリートがら，②焼却残渣（灰），③堆積土砂，の3者を取り扱う。ただし，100ベクレル以下のものに限定する。
- ・ 地盤工学会では「震災地盤対策委員会」が活動しているが，海水浸漬したことによる膠着性の増大，20mm以下土砂への木材の混入に悩まされている。また，上記の値よりも高い放射線量も取り扱っている。
- ・ コンクリートと地盤では強度が2桁異なるので，使える場所が異なってくる。
- ・ 5/25に環境省から「東日本大震災からの復旧復興のための公共工事における災害廃棄物由来の再生資材の活用について（通知）」が出された。
- ・ 廃材を再利用したコンクリートの場合，品質はどのように考えたら良いか？
 - 現状では普通コンクリート同じ性能が求められてしまう。
 - 多少の性能の低下は認めるようなしないと，全く使えないことになってしまう。その場合には非構造物材のみに使えるのか？ 使って良い場所はどこなのかなどを提言できるとよい。
- ・ 復興のための材料が不足している。震災がれきを使いたいのが平時のスペックを求められる

ので、使えない。需給のミスマッチが生じている。

- ・ 焼却灰は品質のばらつきが非常に大きいのが問題である。
- ・ アルミが含まれると発泡するのでコンクリートに使えない。
- ・ アスベストも含まれているのは？
- ・ 太平洋セメントの大船渡工場では 100t/日のがれきを受け入れているが、がれきが塩分を含んでいるため設備を痛める恐れがあり、現状の量が限界である。
- ・ a.がれきの実態, b.がれき処理技術, c.法規制と許認可, d.がれき処理に関する既往の実績, e.処理の実態（進捗率や処理方法）、の 5 項目についてとりまとめるが、最後に「提言」も必要である。
- ・ 福島では、例えばいわきで飛灰の処理が住民の反対でストップしている。通常の土でも 400 ベクレル程度あるのが現状である。
- ・ 岩手では土砂系は木くずが混じるため処理が遅れている。コンクリート系は防潮コンクリートの中込材や地盤沈下の埋め戻し材としてすべて捌けている。焼却灰はすべて埋め立て中である。

4. 今後のスケジュールと進め方：

- ・ 8月3日に仙台を起点としてがれきの視察会を行う。石巻や女川が候補。朝に仙台を出発して、その日のうちに仙台に帰る。詳細は後日連絡するが、旅費は支給しない。
- ・ 9月7日（土木学会全国大会最終日）に名古屋で委員会開催。
- ・ その後、11月と1月に委員会開催を予定。
- ・ 3月に脱稿し、5月に講習会を予定。

次回9月7日の委員会まではWGは結成せず、各委員がそれぞれ情報収集に努め、この日に持ち寄る。

5. その他：

- ・ 委員会支援ツールを活用する。例えば入手した資料はここにアップロードし、情報の共有を図る。